

発表会での ドレス選びのコツ

dress at the concert

秋は発表会シーズン。
最近はただステージで演奏するだけでなく、
料理を楽しみながらお互いの演奏を聴き合うスタイルなど、
そのシチュエーションもさまざまです。
どんな会場にしても、
大勢の前でピアノを披露できる貴重な機会だから、
演奏はもちろん、見た目も素敵にドレスアップしたいもの。
そこで今回は、ホームやサロン、ホールなど、
それぞれの会場に適したドレスの選び方をアドバイスしましょう。

文 尾身直子 写真 菊地英二 イラスト 稲月ちは
撮影協力 ホテルグランドヒル市ヶ谷 tel:03-3268-0111

尾身直子 (おみ なおこ)

桐朋学園音楽大学ピアノ科卒業。卒業後G=CLEF (ジークレフ)音楽事務所を設立。自らも演奏する傍ら、ジャンルにこだわらないコンサート企画を行なう。一方でビジュアル面にもこだわり、2001年インポートドレスショップ「Naobelle Collection」(ナオベルコレクション)を設立。1点ずつこだわりを持って仕入れたドレスは好評を得ている。またステージでの経験を生かし、細やかなドレスコーディネーターと音楽会本番でのサポートまで幅広いサービスを行なっている。今秋、青山に新店舗オープン予定。

掲載ドレス、アクセサリのお問い合わせ
Naobelle Collection (ナオベルコレクション)
tel:03-5370-1499 mail:info@nb-colle.com
<http://www.nb-colle.com/>





ホームコンサート

ピアノの先生の自宅や、ピアノ仲間の家に招待されて開かれるおさらい会スタイル。普段から慣れている場所なので、和気あいあいとしたアットホームな雰囲気の中で演奏を楽しむことができます。

サロンコンサート

最近の大人の発表会に多いパーティー感覚のスタイル。ただピアノ演奏を発表するだけでなく、飲み物や料理を楽しみながら仲間の演奏を聴き合います。ピアノのあるカフェやレストラン、またはメーカーや楽器店が所有するサロンスペースを借りて行なうのが一般的。

ホールコンサート

公的ホールなど、客席数が500程度ある会場で行なわれる、よくある発表会スタイル。ステージにはある程度の高さがあり、演奏者と観客の居場所がはっきりと区別されます。舞台裏で出番を待ち、袖から登場するという本格的な大舞台を経験できます。

ドレスを選ぶときに最も大切なのは、演奏の妨げにならないかを考えること。どんなにデザインが気に入っていても、演奏が不自由では何にもなりません。一番のポイントとしては腕まわりです。ピアノを弾く際、腕は高音部から低音部まで広範囲で左右に動きまわります。演奏中に両腕がクロスする場合もあるので、この動きが楽にできなければいけません。となれば、袖のつき方やストラップの形なども選ぶ際の重要なポイントになります。

次にウエストまわりですが、立った姿勢でのジャストなサイズを選ぶと、演奏時にきつく感じて困る場合があります。椅子に座り前傾姿勢でも苦しくないかどうかを試着時に確かめるようにしてください。

最後に裾まわり。裾はペダルを踏むときに邪魔にならない程度のボリュームをおすすめ

します。スカート部分が何重にもなっていたり、大きいチュールが入っていたりすると、本番で足元がかさばり「あれ？ペダルはどこ？」とあわててしまう可能性も。落ち着きのある良い演奏をするには、衣装にも気を配る必要があるというわけです。

では、ピアノ発表会に合わせたドレスの選び方を、各会場の特徴をあげながら説明していきます。

ホームではすっきりしたコーディネートがけて

和やかなムードが演出できる自宅でのコンサートは、演奏者と客席との距離が最も近くなります。この広さでは大げさなドレスは似合いません。すっきりしたデザインでセンスの良いコーディネートが好感を持たれます。演奏

者と観客の差をちょっぴり出しつつも、派手になりすぎないように心がけましょう。このような場所では、普段の洋服とはひと味違ったデザインのショートやミディアム丈のドレス(a)や、シャープなイメージを持つパンツスーツ(b)が素敵です。また、靴を脱いで演奏することも考慮して全身のバランスが良く見えるデザインを選びましょう。間近で見られることになるので、素材もきちんとしたものを選びたいですね。アクセサリはラインストーン系よりもビーズなどのカジュアルなものをさりげなくつけた方が好印象です。

サロンコンサートでは曲の雰囲気に合ったドレスを

最近、大人の発表会で多いのがサロンコンサート。演奏者が身近な距離にいるという



a 気軽に着られるミディアムドレスは、結婚式のおよばれなどにも最適。ホルダーネックのようにトップにポイントがあるデザインなら、アクセサリをつけなくてもおしゃれに着こなせる。ペロア生地や刺繍のあるものなど、素材感を大切に。

c このようなセパレートドレスが1枚あると着回しが効いて便利。きれいな刺繍やレースのトップに対して、柔らかい素材のストレートなスカートを持つと上品なイメージに。全体的に淡い色調のドレスには、3、4など多少ゴージャスなアクセサリでもOK。

b パンツスーツは小柄な人にもおすすめ。キャミソールタイプのトップは、裾が少しフレアになっているパンツと組み合わせると全身のバランスが良く見える。首もとには1、2などのアクセサリで印象づけると◎。

臨場感や親近感、お茶やお料理などを楽しみながら聴けるスタイルがその人気の理由でしょう。ドレスの選び方としては、この微妙な距離感がポイント。ステージはホームコンサートより広くなりますが、客席との段差がない場合が多いので、ドレスはほとんど“生”の状態で見客の目に映ります。加えて演奏曲のイメージとドレスのイメージなど、総合的なものでもって演奏者を見るようになります。このような場所では、スレンダーライン(c)からAライン(d)程度の広がりすぎないもので、当日の演目のイメージに合うドレスを選ぶといいでしょう。また、演奏者の背後に観客がいる場合もあるので、バックスタイルや足元なども要注意です。身体にフィットしすぎたドレスなどは、ボディや下着のラインがくっきりと出てしまい、見る人をドキッとさせてしまうことも

あるので気をつけてください。足元が後ろから見えることもあまりきれいとは言えませんので、足元が隠れる長さのドレスを選ぶとエレガントです。アクセサリは、ラインストーンなどの光る素材なら小ぶりのものにしておくのがいいでしょう。

大きなホールでは 素材感よりもデザイン優先

中～大ホールでのドレス選びは、舞台の高さ、客席の位置、照明、会場の色味など総合的な判断が必要になりますが、ここでは一般的な中クラスのホールを例に考えてみましょう。ポイントは遠目で映える色合いとデザイン。ラインもAライン(d)から軽いプリンセスライン(f)あたりにすると印象的です。大きなステージではドレスの細かいディテールまで

は見えないので、ドレス選びに迷ったときは素材感よりもデザインを優先しましょう。舞台の照明によって色の見え方も変わってくるので、色合いがはっきり出るものを選ぶと、実際の色と違って見えたなどという失敗も少なくなります。ただ、観客の目を引くトップは、素材感もデザインとともに重要なポイントになります。個性的なもの、ポイントが上の方にあるもの、ラメやラインストーンなどの入ったキラキラ感のあるもの(e)などがおすすめです。また、演奏者の右側が観客席に向けられるので、コサージュやショールなどで右側にポイントを作る工夫をしてみるのもいいでしょう。アクセサリも少し大振りではっきりした色/形のものを選ぶと存在感が出ます。

以上のことを生かしながら、あなたらしい素敵なドレスを選んでみてください。



d
広がりすぎないAラインドレスは気負わずに着られるタイプ。ウエストにポイントがあると、スタイルをすっきりと良く見せてくれる。胸元がシャープなカットの場合、小ぶりの5もカワイイが、6のようにちょっと大きめのアクセサリでも好印象。

